

スペイン語におけるいわゆる中性定冠詞 *lo* の分類上の問題について

土屋 亮

0. はじめに

スペイン語には中性の名詞が存在しないにも関わらず、「中性の定冠詞」と呼ばれる *lo* という形態がある。この点、同じロマンス語でも、中性名詞を残しこれに付加される定冠詞を持つルーマニア語とは異なるが、このスペイン語における *lo* と定冠詞全般については、主として「冠詞か代名詞か」という統語上の位置づけが論争的となり、その先行研究の数は膨大である。そこで本稿では、この *lo* に関する国内外の主たる研究を概観し、その主張を簡単にまとめ、それらが *lo* を統語上どのように位置づけているかという観点から整理することを試みる。そして、中性の *lo* が出現しうる統語環境を網羅し、特に副詞と共起する用法を含めた上でこの *lo* を論じた研究が、管見の限り、無いということを指摘する。

1. 「中性の *lo*」の出現環境概観

現代スペイン語には「中性の定冠詞の *lo*」以外にも、「中性の *lo*」とされる形態が存在する。多くの先行研究において、同じ中性で同じ音形を持つ複数の *lo* という語について、それらを統一的に説明しようと試みるもの、同音異義語として区別するものなど、種々の立場の分類が可能である。その点について検討するために、まず定冠詞以外の「中性の *lo*」の出現環境を整理しておくことは蛇足とはならないであろう。

1.1. 冠詞とは見なされない「中性の *lo*」—対格の *lo* および主格補語を置換する動詞接辞の *lo*—

「中性の *lo*」と呼ばれる形態の中でも、まずは、伝統的な記述的文法において人称代名詞と見なされ、それゆえ冠詞とは見なされない動詞接辞の *lo* を取り上げ、それが出現する統語環境を概観しておく。

まず、他動詞が選択しうる直接目的語の中でも、動詞の不定形や *que* 節、談話内容などが対格の人称代名詞によって置換される場合、*lo* という形式になる。この形式は男性単数形の *lo* と形態上の区別がつかないが、中性とされる場合が多い。たとえば、以下の(1)では、鉤括弧内の *que* 節が *lo* によって置換されていると考えられる。なお、以下の例文中の日本語訳は、断りが無い限り筆者によるものである。

(1) ¿Sabes [que se van a casar Jorge y María]? --- ¡No me digas! ¿De verdad? No lo sabía. (作例)

ホルへとマリアが結婚するの、知ってる? —まさか! 本当? それは知らなかったよ。

一方、他動詞ではなく *ser* や *estar* といった繫辞動詞の主格補語が由来の性と数にかかわらず *lo* という形態によって置換される、(2)や(3)のような現象がある。

(2) ¿Los alumnos de tu clase son [estudiosos]? --- ¡Qué va! No lo son. (作例) [estudiosos は形容詞]

君のクラスの生徒たちは勉強熱心かい？——とんでもない！違いますよ。

(3) ¿Pues es [tan tarde]? --- Siempre lo es para veros. (高橋 1967: 137) [tarde は副詞]

それでは、さほどに遅うござりましたかいな？—そなたの顔を見るに早すぎるということは、ついでないわ [いつも遅い]。(日本語訳は高橋による)

上記2種の *lo* は双方とも、活用している動詞の直前という基本的な生起位置が共通している上、共に何らかの先行要素を前方照応していることが認められるため、代名詞であると通例見なされる。ただし、主格補語を置換する *lo* については、置換可能な語句が名詞に限らず、上記(2)のような形容詞や、(3)のような副詞、前置詞句や節も可能であるので、狭義の代「名詞」とは考えにくい側面もある。

1.2. 動詞以外の要素と共起し、冠詞と見なされる「中性の *lo*」

次に、本稿の主題である、伝統的に定冠詞と見なされる「中性の *lo*」を取り上げる。まずは、この *lo* の出現環境を例文と共に整理しておく。*lo* にどのような要素が後続し、*lo* を含む語列全体が文の中でどのような機能を有するかということが問題になる。例文中の鉤括弧の部分の問題となる語列で、以下の[A]から[E]までの統語パターンがある。

[A] *lo*+男性単数形の形容詞

(4) [Lo importante] es saber. 大事なことは知ることです。(Vergara Fernández 2012: 148)

[B] *lo*+*que* 節

[B1] 先行詞を含む関係節として機能する *lo que*

(5) No entiendo bien [lo que pasa]. 何が起きているのかよく分からない。(Vergara Fernández 2012: 149)

[B2] 直前の文(節)を受ける関係代名詞として機能する *lo que* (この用法では *lo cual* と交換可能)

(6) ... de tal modo que a los 6 años lo reconocen el 90 por 100 de los niños, [lo que] muestra el gran impacto que está teniendo la publicidad del tabaco ...6 歳の子供たちは全体の 90%が (タバコのロゴを) 認識しており、このことはタバコの広告がもたらしつつある多大な影響を証明している。(Elisardo Becoña y otros, *Tabaco y salud. Guía de prevención y tratamiento del tabaquismo*, Pirámide, Madrid, 1994)

(7) está muy enfadada, [lo cual] es comprensible/entiendo perfectamente 彼女はひどく怒っているが、そのことはまったくもって理解できる (*Dictionnaire de poche [Diccionario de bolsillo] français-espagnol / español-francés*, Larousse, Paris, 2001)

[C] *lo*+*de*+名詞句

(8) Supongo que ya sabes [lo de mi suegro]. あなたはもう私の義父の件について知っていると思う。(Javier

[D] *lo*+形容詞または副詞+*que* 節

(9) No sabía [*lo estúpido que era*]. 彼がそんなに愚かだとは知らなかった。(Vergara Fernández 2012: 148)

(10) Me sorprendió [*lo cara que era la casa*]. その家がそんなに高いことに驚いた。

(Villalba and Bartra-Kaufmann 2010: 822)

(11) ¡*Lo fuertes que eran!*! 彼らのなんと強かったこと! (Alarcos 1980: 235)

(12) Habló de [*lo bien que funcionaban sus asuntos*], de [*lo mucho que se divertía viajando sin cesar*], ...

彼女は諸々のことがいかにうまくいっているか、休みなく旅行をし、いかに楽しんでいるかを話した (Fernández Cubas, Cristina, *Los atillos de Brumal*, Tusquets, Barcelona, 1983)

[A]は *lo* に男性単数形の形容詞が後続し、「～なこと」という意味の語列を作る。 *importante* という形容詞は男性・女性共に同形であるが、 *bueno* という形容詞ならば *lo bueno* (「よきこと」となる。[B]の *lo que* 節には二つの機能があり、それが[B1]と[B2]である。前者は先行詞を含む関係代名詞として機能し、常に事物の意味で用いられ、後者は先行する文や節の内容を受ける関係代名詞として機能する。[C]は *lo* に「*de*+名詞句」が後続する用法で、多くの場合「～のこと」などと訳出可能である。[D]は *lo* が形容詞または副詞に先行し、そこに *que* 節が後続する。その節内には形容詞や副詞によって意味を補完される述部が現れ、形容詞の場合、その述部の主語と形容詞の間で性と数の一致が見られる。(10)の場合、 [*la casa* [女性単数] *era cara* [女性単数]] という文が基層になっており、女性単数形の形容詞 *cara* に中性の *lo* が先行するという特徴的な構文をなす。(12)は、副詞の *bien* および *mucho* が *lo* に後続する例であるので、屈折の変化はない。

さて、これまでの[A]から[D]の特徴を小括すると、いずれの語列も中性の *lo* に先行されることによって、この *lo* を含む語列全体が名詞的表現となる。これは *lo* の統語的機能を分析する上で重要である。これらの語列は、上掲の例のうち、(4)、(6)、動詞の *es* が後続する場合の(7)および(10)において、それぞれの主動詞に対する主語として機能し、例の(5)、動詞の *comprendo* が後続する場合の(7)、(8)と(9)においては、直接目的語である。そして、(11)では主動詞を伴わずに現れ、(12)においては前置詞の被制辞となっている。ただ、その一方で、次の[E]のように、*lo* と共起する語列が名詞的表現になっているとは思われないものもある。

[E] *lo*+副詞 (+他の形容詞など)

(13) *Mi hermana es lo suficientemente lista como para no caer en esa trampa.*

私の妹は、そんな罠にかかることがないほど十分頭がいい。(SALAMANCA 1996)

(14) *Las mujeres tienden a relajarse con los hombres a los que creen que atraen sexualmente. Los consideran inferiores y no se protegen lo bastante.*

女は、自分たちが性的にひきつけていると思っている男たちと一緒にいることで、リラックスする傾向がある。そんな男たちを自分より下に見て、女は自らを十分にはガードしないのだ。

(Silva Lorenzo, *El alquimista impaciente*, Destino, Barcelona, 2000)

(13)の例では、形容詞 *lista* が文の主語である *mi hermana* に性と数の文法範疇を一致させ、その主格補語となっている。そして、その *lista* を副詞の *suficientemente* が修飾し、これに *lo* が先行している。次に(14)では、副詞 *bastante* に *lo* が先行し、これが主動詞である(*no se protegen*) を修飾している。この[E]の語列においては、先に見た[A]から[D]までとは異なり、*lo* は後続要素の統語上の機能を変更しているようには見えない。

以上、本節では本稿で問題にする *lo* の出現する統語パターンを整理、概観した。次節では、スペイン語以外のロマンス語としてフランス語を取り上げ、これと類似の統語現象の有無を確認しておく。

2. フランス語との対照

前節でスペイン語の *lo* の統語パターンを整理したが、前節の[A]から[E]に対応する現象は他のロマンス語において見られるだろうか。ここではフランス語を取り上げ、確認する。

まず、基礎的な事実として、フランス語には形態上男性でもなく女性でもない第三の性を持つとみなすことのできる定冠詞は存在しないということを指摘しておく必要がある。無論このことは中性の定冠詞の存在を抽象的に仮定する可能性を排除しないが、フランス語の定冠詞は男性単数の *le*、女性単数の *la*、両性共通複数形の *les* と、エリズイオンによって生じる *l'* という形態しかない。そして、結論から先に言ってしまうと、スペイン語の[A]から[E]までの統語パターンのうち、フランス語で見られるのは[A]のみであり、用いられる形式は *le* である（もちろんエリズイオンが起これば *l'* となる）。

[A] *le* + 形容詞

(15) *L'important, c'est d'aimer.* (1975年のフランス映画のタイトル)

(16) *tu as oublié l'essentiel* (スペイン語文 *olvidaste lo esencial* に対する訳)

(Le Robert & Collins, *Dictionnaire Français-Espagnol Espagnol-Français*, Deuxième édition, 1999)

[B] *ce qui* または *ce que* (*ce qu'*) (定冠詞は用いず指示代名詞の *ce* を用いる)

(17) *j'ai accepté ce qu'on m'a offert* (スペイン語文 *acepté lo que me ofrecieron* に対する訳)

(*Dictionnaire de poche [Diccionario de bolsillo] français-espagnol / espagnol-français*, Larousse, Paris, 2001)

[C] 対応する表現形式はなく他の形式を用いる

(18) *Oublie ce qui s'est passé hier.* (スペイン語文 *Olvida lo de ayer* に対する訳)

(Le Robert & Collins, *Dictionnaire Français-Espagnol Espagnol-Français*, Deuxième édition, 1999)

[D] 対応する表現形式はなく *comme* などによる感嘆文とする

(19) tu ne peux pas savoir *comme* c'est ennuyeux! (スペイン語文;no sabes lo aburrido que es!に対する訳)

(Le Robert & Collins, *Dictionnaire Français-Espagnol Espagnol-Français*, Deuxième édition, 1999)

[E] 対応する表現形式はない

このように、前節で整理した[A]から[E]までの語列におけるいわゆる中性の定冠詞 *lo* の多彩な用法は、フランス語においてはほとんど見られず、両言語においては[A]のみが共有されているに過ぎない。この点、スペイン語の *lo* の出現環境はフランス語の定冠詞と比べて多く、その統語論的・意味論的特性を説明するのは難しいと言えよう。さて次節では、これまでに発表されてきた夥しい数の先行研究の中から、代表的と考えられるものを取り上げ、この *lo* をどのように分析しているかを記述し、分類することを試みる。

3. 先行研究における *lo* の統語上の位置づけ

第 1 節の終わりでまとめたように、*lo* を冠する語列の大部分 ([A]から[E]のうち[E]以外の全て) は全体として名詞性を帯びる。先に挙げた例から、名詞的表現となっている部分を取り出し並べると、

[A] [*lo importante*] =(4)

[B1] [*lo que pasa*] =(5)

[B2] [*lo que*] =(6)

[C] [*lo de mi suegro*] =(8)

[D] [*lo estúpido que era*] =(9)

ようになる。これまで筆者が当たることのできた先行研究の多くは、上記の語列の名詞性を担保しているのはどこか、この中性の *lo* の品詞は本当に定冠詞であるのか、という点について論じている。そして、一部の研究は、上の[A]から[D]で分かるように *lo* の現れる語列の多くが名詞的となる点を括り、統一的な説明を試みようとしている。だが、先に既にふれたように、後続要素の統語上のカテゴリーに変更を加えているようには見えない[E]という語列もあり、これを含めた上で *lo* を論じている研究は、筆者の見るところ、いまだ無いようである。本節で確認する先行研究も上記の点をどのように論じているかで分類されるが、まず、近年は文法書の編纂態度にも変化が見られるとはいえスペイン語の規範を体現している RAE (スペイン王立学士院) が発行する辞典や文法書から見ていくことにする。

3.1. スペイン王立学士院の辞典および文法書

本節では 2000 年代に入ってから刊行された RAE の著作を年代順に概観しよう。

最新版(2014)の一つ前の版となる『スペイン王立学士院スペイン語辞典第 22 版』(2001)は、統語環境に応じて、中性定冠詞の *lo*¹ と代名詞の *lo*² を別々に立項しており、後者には対格の人称代名詞をも含める(ただし以下の引用では省略)。辞典特有の略記を補って引用する。

[*lo*¹] art(ículo). deter(minado). n(eutro). sing(ular). de el.

[*lo*²] pron(ombre). seguido de un posesivo o de un nombre introducido por la prep(osición). de, señala la propiedad de quien se

indica. *Lo mío. Lo de Pérez.*

以降RAEはスペイン語圏各国のスペイン語学士院の連合体であるスペイン語学士院協会(ASALE)との連名で数々の刊行物を発表するが、2005年の『汎スペイン語圏疑問辞典(DPD)』に続く2009年の『スペイン語新文法』では、以下のように、*lo*の統語上の位置づけについての論争が現在も進行中であることを認めながらも、無強勢語である点、名詞相当句を構成することができる点が、他の定冠詞と共通であるとして、定冠詞のパラダイムに含めるとしている。

En cualquier caso, la polémica sigue siendo actual. Algunos gramáticos que no son partidarios del análisis de la nominalización consideran, sin embargo, preferible mantener la forma *lo* en el paradigma de los artículos, como se hará aquí, ya que sus usos son similares a los del resto de los determinantes definidos. [...] La forma *lo* comparte además con el resto de los artículos determinados su naturaleza átona y su capacidad para formar grupos nominales definidos. RAE y ASALE (2009: 1073)

そして、2014年に発行された最新版の『スペイン王立学士院スペイン語辞典第23版』では、以下の引用で分かるように、前の版まで代名詞とされていた*lo*の用法まで定冠詞にまとめ、語法解説を相当に充実させた上で、本稿で取り上げている問題の語例も以下の9. 10. 11.に見られるように機能別に分類している。

[el, la] art(ículo). deter(minado). n(eutro). 9. Ante adjetivos en masculino singular, complementos prepositivos con la preposición *de* u oraciones de relativo, forma sintagmas nominales definidos que denotan entidades a las que se atribuyen las propiedades descritas por tales modificadores. *Le encanta lo étnico. No me explicaste lo de ayer. ¿No te interesa lo que dice?* ||10. Ante adjetivos seguidos de complementos con la preposición *de*, constituye sintagmas que denotan propiedades atribuibles a lo designado por el término de la preposición. *Lo bueno de estar aquí.* ||11. Pondera el grado del adjetivo o el adverbio al que modifica. U. seguido de una subordinada introducida por *que*. *Ya sabes lo lentos que son. Admiro lo bien que trabaja.*

以上見たようにRAEは、本稿で問題にしている中性の*lo*が定冠詞であるという伝統的な立場を崩さず、新旧両版の『スペイン語辞典』を見ても分かるように、旧版で代名詞としていた*lo*の用法を新版では定冠詞とするなど、伝統的な「中性の*lo*=定冠詞」という立場をさらに固めているように思われる。

3.2. 個別研究

3.1節ではRAEの著作を概観し、*lo*についての立場を確認した。次に本節では現代に近い国内外の個別の研究(単著および論文)を取り上げ、それらが*lo*を含むスペイン語の定冠詞にどのような統語的位置づけを与えているかによって分類する。このようなことを意図するのは、既にふれたように、[A]から[D]の語列に現れる*lo*を定冠詞とするか代名詞とするかで論争があり、かつ、スペイン語以外の言語を対象とした

研究や生成文法学派など特定の理論に基づいたものも含めると先行研究の数は膨大で、これを整理しておく必要があると思われるからである。なお、以下では、スペイン語における中性以外の、すなわち、男性や女性の定冠詞を *el* という形態で表す。

3.2.1. 「*el* および *lo* = 定冠詞」説

まず、最初に取り上げるグループは、*el* や *lo* を定冠詞とみなす伝統的、規範的な立場である。以下、年代順に先行研究を挙げ、その概要を、紙幅の都合もあるので、ごく簡単に記す。

Alarcos (1980) : 本稿の[D]の構文を検討。(11)は Alarcos の例である。

Stengaard (1984) : [D]のうち(9)と(10)に該当する構文を主に検討。*lo* は冠詞であって、これに後続する形容詞が名詞化されると分析。ただ、主たる論点はスペイン語において「中性」という語が不適切に用いられている点であり、中性と考えられている *que* 名詞節や動詞不定形に定冠詞 *el* が付くことを指摘。

Hernández Alonso (1985) : *lo* の統語上の位置づけについて検討。本稿の(1)から(3)のように動詞接辞になる lo_1 は代名詞、[A]や[C]といった語列に現れる lo_2 は冠詞。その根拠の一部は、「*a el que* は *al que* となる（つまり前置詞と定冠詞 *el* の縮約が起きる）から、*el* は冠詞である。よって、連辞の平行性から *a lo que* の *lo* も冠詞である」、「代名詞の lo_1 と冠詞の lo_2 がもし同一なら、*Hazlo mejor*.（それをよりよくせよ）と *Haz lo mejor*.（よりよいこと・最善をなせ）の区別ができない」といったものである。

小池(1990) : 題目に「中性定冠詞」とあるのでここに入れたが、*lo* の統語上の位置づけそのものを扱った論文ではない。*bastante* や *suficientemente* などが *lo* に後続する[E]の語列を検討した、国内では数少ない論文の一つと言えよう。*lo* には「特殊な等級を表す副詞句を形成する」機能があるとしている。

長谷川(1991) : 主に [el de 名詞] の語列を検討。定冠詞に前置詞 *de* と名詞句が続く[C]の語列は、男性や女性の定冠詞でも可能であるが、この語列について [el (省略された名詞) de 名詞] という構造を想定する。男女の定冠詞の場合、省略された（と考えることのできる）名詞は文脈から復元可能な場合がほとんどだが、*lo* の場合には復元可能な名詞は存在しない点をどう考えるかが問題だとしている。

Leonetti Jungl (1999: 829) : RAE の文法書の中でも外典的扱いを受けていると言える『スペイン語記述文法』(GDLE)の中で、*lo* を定冠詞に含めている。

Leonetti (1999) : 上と同じ著者が自身の単著において、男性や女性の定冠詞との平行性からやはり *lo* を定冠詞の中に含めている。詳細は同書 pp. 66-68 を参照。

Caponigro (2002) : 生成文法の枠組みで *free relatives*（先行詞のない関係節）について考察。英語が中心だが、スペイン語にも言及がある。本稿の[A]、[B]、[D]における中性の *lo* の意味素性は[-human]のみで定冠詞だが、[+human]と[-human]の両方が可能な動詞接辞の *lo* は代名詞であるとする。

Jiménez Juliá (2007) : スペイン語の名詞句全般に関連する種々の異なる理論的な立場について網羅的に考察しており、この分野で必読と言える。*lo* を含む定冠詞は後続要素を名詞化する機能を持つとする。

ただし、*lo* が副詞に冠する[E]の語列や本稿の(1)から(3)のような動詞接辞における *lo* にはふれておらず、冠詞の *lo* の用法と従来から考えられているもののみを初めから扱っているようにも感じられる。

3.2.2. 「*el* および *lo* = 代名詞」説

次に、スペイン語の定冠詞（類）を代名詞と考える学説を唱えている先行研究を取り上げる。

Bello(1847): 彼の名著『アメリカ人の使用のためのカスティージャ語文法』内で、*lo* は代名詞であって、定冠詞の *el/la/los/las* は弱い指示詞であるという説を唱えている。指示詞は形容詞であり、形容詞は実詞化する。*el/la/los/las* の実詞化した形態は、3 人称の主格人称代名詞 *él/ella/ellos/ellas* である。彼の理論は後代のスペイン語学者に大きな影響を与え、同じ学説を選ぶ者は彼を引用することが多い。

江藤(1983): [el /de 名詞/形容詞/que 節] の語列を検討。主として、以下のように前置詞 *de* に先行する定冠詞と指示詞 *este/ese/aquel* との平行性から、上記の語列における *el* および *lo* を代名詞と断じている。

a) El libro de Pedro es rojo, pero el de María es negro.

b) Este libro de Pedro es rojo, pero este de María es negro. (江藤 1983: 48-49)

荻原(1986): 本稿で問題にしている *lo* の統語上の分類というテーマを正面から扱った、国内ではほとんど唯一と思われる論文である。非常に多くの先行研究を読み解き、統語論上および意味論上の分析を通じて、「*lo* は冠詞の類に属すのではなく、指示代名詞の下位範疇か、*ello* の目的格・斜格か、人称代名詞の目的格のいずれかに属すのであり、中性即ち抽象ではないのである」という結論を導いている。

Bosque (1990): 統語範疇を論じた単著のうち一章をこの問題に割いている。*lo bueno* においては *lo* が核であり、それを *bueno* が限定している。論理学者が考えるように、それは *el libro* においてもそうであるという。... el lógico hable con frecuencia de la forma en que *libro* especifica a *el*. (Bosque 1990: 183)

藤田(2010): 生成文法の枠組みで、主に「前置詞+*el que* 関係節」を検討。定冠詞は人称代名詞同様、D 主要部の位置を占めると分析されるため、代名詞としての機能を持っていると考えられるという。また、中性の *lo* については、「それ自体代名詞としての指示性を持ち合わせた代名詞と定冠詞の中間的ステータスをもつ要素である(藤田 2010: 173)」と述べている。藤田(2012)も合わせて参照されたい。

Vergara Fernández (2012): 本稿の[A]から[C]を検討。*lo* を「本質としての特性に言及する名詞句」を構成する要素としている。論文冒頭で[D]や[E]の例も挙げているが、これを除外して *lo* を論じている。

...*lo* permite que las tres estructuras estudiadas formen un sintagma de valor nominal que hace referencia a una cualidad como esencia... (Vergara Fernández 2012: 163)

3.2.3. 「*el* および *lo* = 統語環境に応じて分類」説

最後に取り上げるのは、前 2 節で見た二説の折衷的なものとして、統語環境に応じて定冠詞の機能を分

類する説である。以下の研究がこれに該当しよう。

Garrido Medina (1986) : 定冠詞 (*el* が中心) に形容詞あるいは関係節が続く語列を検討し、照応する名詞の有無に応じて *el* を分類している。照応すべき先行詞がある場合の *el* は定冠詞であり、名詞は省略されているという。冠詞が後続要素 (とりわけ形容詞) を名詞化するという考え方は採用しない。

la chica alta → la alta (*el alta) Los libros de aventuras son los que más le gustan.

一方で、先行詞がない場合の *el* および *lo* は、それ自身が核であって特定の名詞への照応はなく、*el* は「～する人」、*lo* は「こと」を意味する。El que estudia aprobará.における *el que* がこれに該当する。

原(1995) : [D]を検討し、これを「性数一致形容詞の中性名詞化構文」と名付ける一方で、前置詞 *de* が後続する[C]における *lo* は代名詞であるが、形容詞が後続する[A]や[D]においては定冠詞であるとする。

4. *lo* の統語上の位置づけを検討する際に直面する課題

前節では、定冠詞の統語上の位置づけに関する研究の分類とごく簡単な註釈を試みた。当然ながら、研究者ごとに寄って立つ哲学や理論が異なり、同じ現象を前にしても得られる結論は様々である。以下では、筆者自らの態度決定も含め、より妥当な仮説を立てるために今後求められることを確認し、小稿を閉じる。

まず、非常に根本的な言語学上の態度の選択肢として、「同一の形態を持つものは同一の機能を持つ」ということを是とするかどうかである。本稿の例文(1)、(2)、(3)のような動詞接語の *lo* といわゆる中性定冠詞 *lo* を「同音異義語 (ここでの「義」には「機能」も含まれるとしておく)」とするのか、同一の語であるが統語環境によって機能を変える「多義語」とするのか、ということが問われる。理論の簡潔性(simplicity)を良しとする立場に立てば、後者の一元論的な観方を採用することになる。

また、[A]の語列の場合、*lo* に後続するのが形容詞であるから、*lo* そのものに名詞性があるとする考え方で、RAE(2009)のように後続要素が形容詞であっても *lo* を伴うことで名詞句が構成される点から、*lo* は冠詞であるとする考え方もある。前者の考え方の背景には、「冠詞は名詞に冠さなくてはならない」という観念 (Jiménez Juliá(2007)によれば「先入観」) がある。これを受け入れるかどうかということは、そもそも冠詞とは何かという定義に直結し、種々の立場の選択を調査者に迫るだろう。筆者自身の態度決定も今後の課題として残る。

このように *lo* の分類は研究手法や言語観の選択を問われる困難な問題である。しかし、どのような立場を選ぼうと、それは言語事実に基づいていなければならない。副詞が後続し、全体として名詞句にはなっていない(13)や(14)の例を個別に扱った研究は存在するが、これを含めて中性の *lo* の統語上の位置づけを検討した研究は、管見の限りにおいて、まだないということも指摘しておく必要があるだろう。

参考文献

Alcarnos Llorach, Emilio (1980) *Estudios de gramática funcional del español 3ª ed.*, Gredos, Madrid.

- Bello, Andrés (1847) *Gramática de la lengua castellana*, EDAF, Madrid, 1984.
- Bosque, Ignacio (1990) *Las categorías gramaticales*, Síntesis, Madrid.
- Caponigro, Ivano (2002) "Free relatives as DPs with a silent D and a CP complement" In Vida Samiian (ed.), *Proceedings of the Western Conference on Linguistics 2000*, pp.140-150, California State University, Fresno, CA.
- 江藤一郎(1983)「スペイン語のいわゆる「定冠詞の代名詞的用法」について」『外国語教育』9号(天理大学)、pp.46-60。
- 藤田健(2012)「ロマンス諸語における定冠詞の代名詞的性質」『北海道言語文化研究』10号(北海道言語研究会)、pp.7-22。
- 藤田健(2010)「第9章スペイン語における“que”および“el que”を用いる関係節の統語構造」、北海道大学大学院文学研究科言語情報学講座(編)『言語研究の諸相 -研究の最前線-』、pp.151-181。
- Garrido Medina, Joaquín César. (1986) "Pronombre y artículo. *El* en construcciones con adjetivo o relativo", *Revista de Filología Románica IV*, Editorial de la Universidad Complutense de Madrid, pp.51-71.
- 長谷川信弥(1991)「スペイン語における定冠詞の代名詞的用法について」*Estudios Hispánicos* 16(大阪外国語大学)、pp.51-59。
- 原誠(1995)「性数一致形容詞の中性名詞化構文について」*Hispanica* 39, pp.42-57。
- Hernández Alonso, César (1985) "Lo, ¿artículo o pronombre?", *Anuario de Lingüística Hispánica* 1, pp. 115-127.
- Jiménez Juliá, Tomás (2007) *Aspectos gramaticales de la frase nominal en español*, Verba Anexo 60, Universidade de Santiago de Compostela.
- 小池和良(1990)「中性定冠詞“lo”の周辺の用法」、『語学研究』61号、拓殖大学語学研究所、pp.39-56。
- Leonetti Jungl, Manuel (1999) *El capítulo 12: El artículo*, en Ignacio Bosque y Violeta Demonte (eds.) (1999) *Gramática descriptiva de la lengua española*, Espasa-Calpe, Madrid, pp.829-834.
- Leonetti, Manuel (1999) *Los determinantes*, -Cuadernos de Lengua Española-, Arco/Libros, Madrid.
- 荻原寛(1986)「所謂中性定冠詞 lo の語彙論における位置」、『語学研究』9号、神奈川大学外国語研究センター、pp.29-68。
- Real Academia Española (2001) *Diccionario de la lengua española 22ª edición*, Espasa-Calpe, Madrid.
- Real Academia Española y Asociación de Academias de la Lengua Española (2005) *Diccionario panhispánico de dudas*, Santillana, Madrid.
- Real Academia Española y Asociación de Academias de la Lengua Española (2009) *Nueva gramática de la lengua española*. Espasa, Madrid.
- Stengaard, Birte (1984) "El problemático lo español", *Studia Neophilologica* 56, pp.215-221.
- Vergara Fernández, Viviana (2012) "La forma LO en tres contextos gramaticales", *Estudios Filológicos* 50, pp.147-165.
- Villalba, Xavier and Anna Bartra-Kaufmann (2010) "Predicate focus fronting in the Spanish determiner phrase", *Lingua* 120, pp.819-849.